

# 新型インフルを考える

来月3日「かながわ健康塾」



さん。

本格的な受験シーズンを前に、「ウイルスと人類の攻防―新型インフルエンザはなぜ発生したか?」をテーマにした「第3回かながわ健康塾」が2月3日午後6時半から高津市民館(川崎市高津区、ノクティ2)の12階大会議室で開催される。神奈川県医師会、川崎市医師会と読売新聞横浜支局の主催で、京浜連合読売会の協力。専門医が家庭や職場の対策について助言する。

講師は、県医師会理事でほとりクリニック院長の羽鳥裕さん(写真)。座長は、川崎市医師会副会長で竹本小児科医院院長の竹本桂一

さん。羽鳥さんは、日本内科学会と日本循環器学会に所属する専門医で、当日は新型インフルエンザがなぜこれほどはやったかを探る一方、流行の第2波が来ることを警戒してどう対処すべきかを語り、風疹、はしか、重症急性呼吸器症候群(SARS)など、ほかのウイルス性の病気についても解説する。

定員200人。高津市民館はJR武蔵溝ノ口、東急田園都市線溝の口両駅前から徒歩2分。申し込みは往復はがきかファクスに「健康塾」と書き、住所、氏名、電話番号を明記し、〒223-10023 横浜市中区山下町51-1 読売新聞横浜支局(ファクス045・201・8341)へ。